

平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 71人

② 算数 71人

5 留意事項

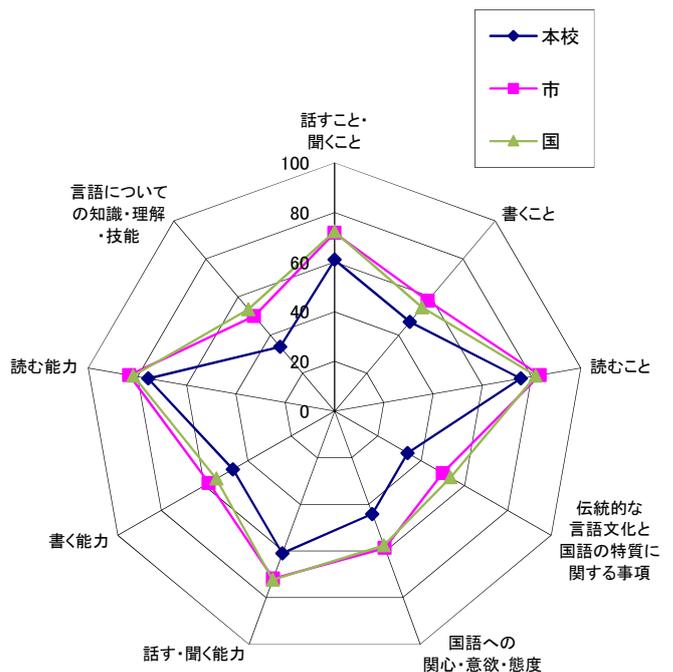
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原東小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	61.0	71.8	72.3
	書くこと	46.9	58.0	54.5
	読むこと	75.6	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	33.8	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	44.1	58.7	57.6
	話す・聞く能力	61.0	71.8	72.3
	書く能力	46.9	58.0	54.5
	読む能力	75.6	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	33.8	50.0	53.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

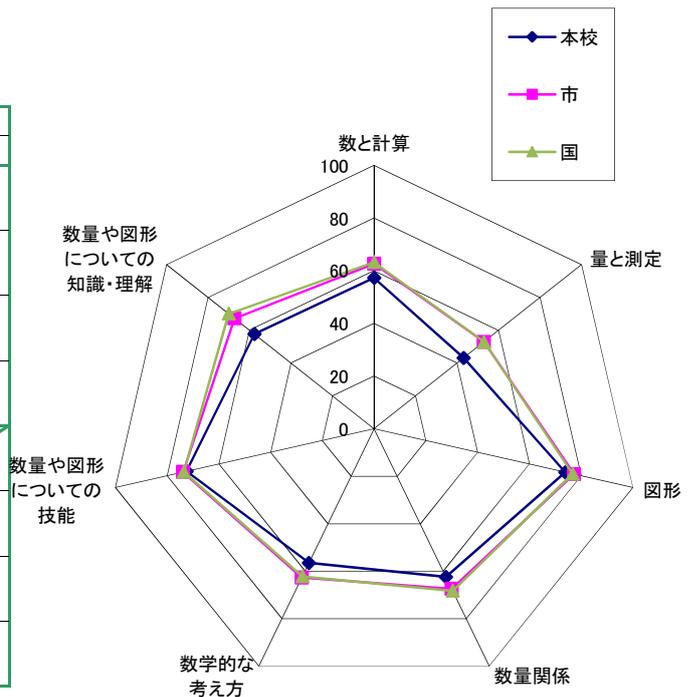
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、全国平均より低い。</p> <p>○話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問を選択する設問では、他の設問より正答率が高い。朝のスピーチなどで質問をする機会を多く設けている成果だと考えられる。</p> <p>●自分の考えを条件に合わせて書く設問では、正答率がかなり低く、無回答率も高い。考えをまとめて書くことに課題が見られる。</p>	<p>・相手や目的を意識して自分の伝えたいことを筋道を立てて話す機会を意図的に設けたり、話すだけでなく、自分の考えを短い時間で考えて書く機会を多く設けていく。</p> <p>・設問の意図を理解することが難しい児童も多いようなので、同じような問題に取り組む機会を増やしていく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、全国平均より低い。</p> <p>○情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を問う設問では、他の設問より正答率が高い。国語の学習の中で学んだ書き方の工夫について理解できている児童が多いことが伺える。</p> <p>●目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にしまとめて書く設問では、正答率がかなり低い。条件に合わせて書くことに課題が見られる。</p>	<p>・目的や意図に応じて、内容を整理しながら決められた文字数で書くなどの条件に合わせて書く活動に慣れるよう、機会を設ける。</p> <p>・自分の考えを表現することに課題が見られるので、作文する機会を増やし、文章を書くことに慣れさせる。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、全国平均より低いだが、他領域に比べて正答率が高い。</p> <p>○食べ物の保存について答えとなる文を選択する問題では、国、市の平均正答率とほぼ同じである。</p> <p>○他領域に比べて、読むことの領域の無回答率は低い。</p>	<p>・「読むこと」に関しては、他領域に比べて児童の苦手意識が低い傾向が伺えるので、今後も説明文や物語文を読む機会を意図的に取り入れ、短時間に読んで回答するスキルを身に付けさせていきたい。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、全国平均より20%近く低くなっている。</p> <p>●既習の漢字を文中において正しく選択して書いたり書き直す問題では、正答率が低だけでなく、無回答率が高い。</p>	<p>・既習の漢字についての読み書きについては、小テストや50問テストを活用し、反復練習をして定着を図る。</p> <p>・短文の中で、意図的に既習の漢字を使って書かせる機会を多く取り入れる。</p>

宇都宮市立清原東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	57.3	62.7	63.2
	量と測定	43.2	52.9	52.9
	図形	73.9	77.3	76.7
	数量関係	62.4	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	56.5	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	72.5	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	57.7	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、全国平均より低い。 ○350-97の計算について、計算しやすいように引く数の97を100にした式にして簡単に計算することがよくできた。 ●加法と乗法の混合した整数と小数の計算に課題が見られる。 ●リボンの長さ(1より小さい)と代金から、1m分の長さを求める除法の式の意味を理解することに課題が見られる。</p>	<p>・+、-、×、÷や()の混じった計算の順序や式の意味を考えて計算することを繰り返し指導する。 ・問題解決をするときの手段として、数直線を用いて数量関係を視覚的にとらえさせることで、除法の式の意味を考えて立式できるように指導する。</p>
量と測定	<p>平均正答率は、全国平均より低い。 ●示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方を説明することに課題が見られる。国の平均正答率を下回っており、無回答率も20%と低い。</p>	<p>・授業の中に自分の考えを書く活動と伝える活動を多く取り入れ、筋道を立てて説明する力を育てるようにする。学年に応じた説明の言葉の指導も取り入れる。</p>
図形	<p>平均正答率は、全国平均よりやや低い。 ○2つの合同な台形を、ずらしたり回したり裏返したりして、同じ長さの辺どうしを合わせてつくることのできる形を選ぶことがよくできた。実際に図形を動かすなど操作的な活動を通して理解を深めることができた成果であると考えられる。</p>	<p>・今後も、操作的活動を通して、実感を伴った学習を展開するように努める。</p>
数量関係	<p>平均正答率は、全国平均より低い。 ○1980年から2010年までの10年ごとの市全体の水の使用量について、棒グラフから分かることを選ぶことがよくできた。全国の平均を上回った。 ●2つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量について分かることを選び、選んだ理由を記述することに課題が見られる。2つの資料を関連付けて考え判断することに課題が見られる。</p>	<p>・算数だけでなく、社会や理科などの他教科との関連を図り、グラフの読み方の指導を強化する。1つの資料だけでなく幾つかの資料を関連付けて考え判断できるような発問を工夫する。</p>

宇都宮市立清原東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日、同じくらいの時間に起きている」と「毎日、同じくらいの時間に寝ている」の肯定的回答が9割を超えており、県の平均を上回っており、引き続き、生活習慣の改善について呼びかけていきたい。

○「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う」という肯定的回答が100%となっており、運営委員の企画するいじめゼロ集会や呼びかけなどの成果だと考えられる。

○「国語の勉強は好き」の肯定的回答が8割を超え、県の平均よりも10ポイント近く上回った。また「国語の勉強は大切」という肯定的回答が99%と県と比べても4ポイント近く上回った。学力向上に向けた学校全体での取組の成果が表れていると考えられる。

●「先生はあなたのおよところを認めてくれている」の肯定的回答が94.4%と県や全国の平均を上回っているのに対して、「自分にはよいところがあると思う」の肯定的回答は8割を下回り県の平均も下回っている。児童が自己肯定感を高められるような授業や日々の取り組みを工夫していきたい。

●「学校の授業以外で普段1日にどのくらい勉強しますか」の問いに対して1時間未満と回答した児童が35.2%と県の平均を上回っており、ゲームやスマホの利用時間が増えており、学習習慣の定着を図る必要があると考えられる。「家庭学習ががんばり週間」などを有効活用して学習習慣の定着を図りたい。

宇都宮市立清原東小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本を確実に身に付けさせる指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 分かる授業の展開(効果的な発問・助言・指示・課題提示からまとめまでの板書の工夫、教材・教具の工夫等) 朝の学習の充実 「漢字・計算オリンピック」の実施(年3回) 	<ul style="list-style-type: none"> 算数では、知識に関する基本的な問題については、県の平均を上回るものもあった。しかし活用問題については、県の平均を10ポイント以上下回るものがあった。 国語では、漢字を文の中で正しく使うことに課題が見られ、県の平均を大きく下回った。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 7月と11月と2月に「家庭学習強化週間」を実施し、「家庭学習カード」に学習時間を記入したり、保護者の励ましや助言などを書いてもらったりして提出するよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段の学習時間については、「1時間以上2時間より少ない」と回答した児童の割合が一番多く、県の平均とほぼ同じであるが、「1時間より少ない」と回答した児童の割合は県の平均を上回り、全体的に学習時間は少ない。しかし、1時間以上学習している児童は、昨年の54%に比べると64%と割合が増加した。
自分の考えをもち、説明する力を付けさせる指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを書く場を多く設定し、「書く」ことの習慣化を図る。 根拠を明確にして自分の考えを表現できるように、手順を示すなどして書き方や説明の仕方を丁寧に指導する。 学習形態(ペア・グループ)を工夫し、互いの考えを伝え合う活動を多く取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語も算数も自分の考えを書く際に、途中で解答を書くことをあきらめてしまったり、最初から解答しなかったりという無回答率が県の平均より高く、自分の考えを筋道立てて説明することに課題が見られた。しかし、「国語の授業で、自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝えるように理由を示したりするなど、話や文章の組み立てを工夫している。」と回答した児童は76%と県の平均を上回っており、取組の成果が少しずつ表れていると考えられる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

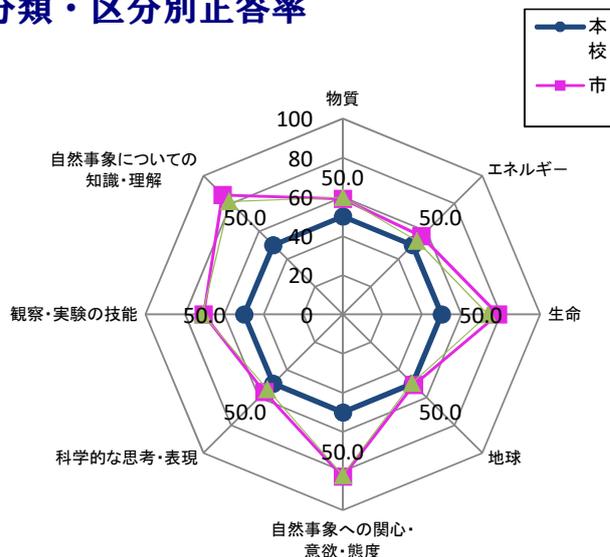
調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> 言葉のきまりやローマ字、漢字辞典の使い方、分度器の使い方や図形の作図などの基本的な知識や技能に関する問題の中で、県の平均よりも下回るものがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 復習により定着を図る学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的なミニテストの実施(授業開始5分間で) 朝の学習の内容を充実させる。 前学年までの内容を復習する機会を設定し、定着を図れるようにする。(ステップアップシートやパワーアップシート等の活用)

宇都宮市立〇〇〇小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	50.0	59.0	59.8
	エネルギー	50.0	56.4	53.1
	生命	50.0	78.6	73.6
	地球	50.0	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	50.0	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	50.0	56.1	54.1
	観察・実験の技能	50.0	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	50.0	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	○ ●	
エネルギー		
生命		
地球		